



（ A. F. ） 日本語日本文学科 3年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは、台湾の台中市にある静宜大学で 10 日間日本語指導実習を行うものです。

私は 50 分の授業を 2 コマ担当しました。人によって参加するクラスが異なるので、それぞれのクラスのレベルや人数に合わせた授業を準備します。出発前に同志社女子大学の先生だけでなく、静宜大学の先生とも連絡を取り、授業に関する情報や教案・教具についてのアドバイスをいただきました。そのおかげで授業に対する不安を和らげることができました。

静宜大学では自身の実習に加えて、他の実習生の授業見学を行いました。実習はとても緊張しましたが、大きな達成感を感じました。実際に授業をすることで気づく点も多かったです。授業見学は実習生が行う授業だけでなく、静宜大学の先生方が行っている授業も見学することができます。どちらの授業もとても参考になり、授業見学を受けて自身の授業を改善するなど 10 日間という短い時間でとても多くの事を吸収し、成長できたと感じています。

実習以外の時間は静宜大学の学生さんとたくさん交流しました。土日にはフィールドトリップで台湾を観光し、授業が午前中までの日は午後から学生さんと出かける機会もありました。静宜大学の学生さんとの交流を通して日本語指導に関することだけでなく、台湾の文化や言語について学ぶことができ充実した時間を過ごしました。

私は今回のプログラムが初の海外だったため準備期間は不安なことも多かったですが、その不安も忘れるほど台湾ではたくさんの楽しい経験をすることができたと感じています。



教壇実習



フィールドトリップ



Ⅱ. 参加希望者へのアドバイス

【実習】

私がこのプログラムに参加するにあたって最も不安を感じていたのが、実習についてです。これまでの授業などで模擬授業を行ったことはありますが、日本語を母語としていない人に対する日本語指導は経験がありませんでした。「無事にやりきれぬのか、失敗をしてしまったら」など不安は尽きませんでした。その不安を少し和らげることができたのは、事前指導や授業準備です。

全員で行う事前指導だけでなく、同志社女子大学や静宜大学の先生方とはいつでも連絡をとることができました。授業の全体像を把握し、納得が出来るまで授業準備を行うことが実習の成功のためにも、自身の不安を軽減させるためにも最も効果的だったと感じます。

準備を進めていく中で新たな不安が生まれたり、台湾についてから修正点を見つけたりすることもありましたが、先生方の細やかなサポートや共に頑張れる仲間がいたことで無事に授業を行うことができました。

【生活】

・服装

台湾では日中と夜で気温差が大きく、服装に迷うことが多かったです。

パーカーなど調節が可能なものや、持ち歩いてもあまりかさばらないものをいくつか持っているといいと感じました。実習中はスーツを着用しますが、私服を着る機会もかなり多かったです。

また服装の事と合わせて、洗濯機を使う際は洗濯・乾燥に少し時間がかかるので寝る直前ではなく、少し早い時間から洗濯すると思います。お風呂などもつつい後回しにしていまいがちですが、早めに洗濯を行うためにも早め早めに行動すると余裕が生まれます。

・寮

私は今回3人部屋でした。寮の下には FamilyMart やプリントなどを印刷するお店がかなり夜遅くまで営業しています。また冷蔵庫や洗濯機などが共用で使えるためあまり不便はありませんでした。大学内に食堂などもいくつかあるため、食事も色々なものを食べることができます。

私が実習に行った時期が3月ですが、部屋には蚊が多かったので虫よけスプレーなどがあるといいと思います。ティッシュなどはなるべく多く持っていくと便利だと感じました。観光スポットなどのトイレにはトイレットペーパーがなく各自のティッシュを使うところもあるのでたくさん持って行っても使う場面が多いです。

しかし大学内には日用品を買えるお店もあるので、すべてを用意できない場合も問題ありません。

・交流

10日間の実習では静宜大学の学生さんたちと関わる機会が多くあります。授業の時間だけでなく、チューターさんという土日の観光などに一緒に出かける学生さんともたくさん交流しました。

チューターさんとは日本語でやり取りすることが出来ます。私は、チューターさんに中国語や

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



台湾語を教えてもらったり、空いている時間に一緒にご飯を食べたりと 10 日間毎日交流をしていました。土日の観光や空いている時間、歓送迎会でたくさんのチューターさんと交流することで 10 日間をより濃いものにできると思います。積極的にコミュニケーションを取ることがカギです。

【最後に】

このプログラムは「日本語指導に対する理解を深め、知識・経験を得る」だけではないと感じました。

異なる言語・文化の場で私たちは自身を見つめなおすことが出来ました。日本で生活する・海外に旅行に行くだけでは決してできない経験を経ることが出来ました。そのような経験をしたとき「自分自身はどのように感じるのか、どう受け入れるのか」それを感じる事が出来ました。異なる当たり前を前にして不安に思うこともあるかもしれませんがこの 10 日間は何物にも代えがたい経験となると思います。

台湾での実習を終えたとき、自分自身が最も自身の変化に気づくことが出来ます。

これからこのプログラムに参加する皆さんが、台湾でたくさんの学びを得ることができ、良い出会いがあることを心から願っています。



チューターさんと有名なアイス店へ



フィールドトリップ



学校の近くのお店で夜ごはん



放課後に植物園へ



（ K.F ） 日本語日本文学科 3 年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは台湾の台中市にある静宜大学にて 10 日間滞在し、50 分授業を 2 コマ行うものです。日本語教育実習をメインとして様々な経験をすることが出来ます。

私が担当したのは中級会話クラスで、人数は 10～20 人程度と比較的小規模であったと思います。中級のクラスではありますが、日本語のレベルはかなり個人差があるという印象を受けました。実習に行く前に同女、静宜大学の指導担当の先生と相談しある程度の教案や授業準備を進めていましたが、現地に到着し実際に授業を見学させていただいたり、指導担当の先生と最終調整を行う際に自分が想像していたイメージと異なる点がいくつかあり、教案及び授業内容を大幅に修正し、実習当日を迎えました。

土曜日と日曜日は静宜大学のチューターさんが台中市内を案内してくださり、たくさんの場所を観光しました。行きたいところや食べたいものを聞いてくれて注文や会計、案内等全てサポートしてくれました。

私のチューターさんは土日だけでなく、授業がある平日の休み時間や放課後にもご飯を食べに行ったり遊びに行ったりと、とても親切にいただきました。充実し楽しい時間を過ごすことが出来て、感謝しています。

II. 参加希望者へのアドバイス

教案や授業準備についてですが、現地に行く前にある程度は完成させておくことをおすすめします。実習期間は忙しくなりますし、慣れない環境ですので体調を崩すこともあるかと思います。教壇実習の前日に徹夜をして睡眠不足にならないように、日本にいる段階から指導担当の先生とよく相談し、準備をしておきましょう。時間があると夜市等、たくさん観光ができるので、より楽しく 10 日間が過ごせると思います。

教案はあまり完成度を高くしすぎると逆に修正が難しくなるので、6,7 割にしておいて、クラスの雰囲気や学習者のレベルを確認してから、最終の教案づくりに入った方がスムーズかもしれません。

宿泊、生活についてですが、寮の下階にファミリーマートや食堂、文房具屋があります。食べ物や日用品は大体揃います。大学の近くにもスーパーマーケットがあり、日本の製品も売って



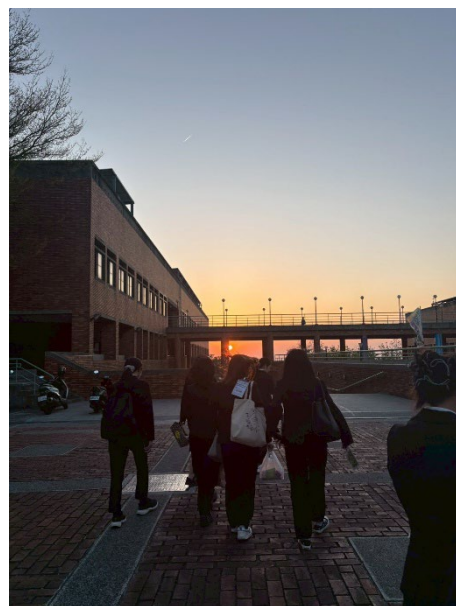
いました。洗濯機と乾燥機が置いてあるので、洗剤（ジェルボールがおすすめです）を持参しておくと洗濯ができます。ユニットバスなので、お風呂・トイレ用にスリッパを持って行った方がいいです。お風呂上りに敷く足ふきマットもあると快適です（私は使い捨てのバスタオルを敷いていました）

基本的になんでも揃います。忘れ物をしてもどうにかなるので、荷物は最小限にしておいた方がいいです。帰りはお土産等で確実に荷物が増えるので、行きはスーツケースに空きがあるくらいでちょうどいいと思います。

持ち物ですが、ウェットティッシュや水に流せるティッシュをたくさん持って行った方がいいです。台湾の観光地ではトイレが流せなかったり、トイレットペーパーがなかったりします。ティッシュはあればあるだけ快適です。

虫が多いのでムヒや虫よけがあるといいかもしれません。

10日間、本当に楽しかったです。この経験はこれからの人生の中で確実に生きてくると思います。事前に準備をしっかりとしておくことでより充実した実習になると思います。



静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



（ M. F. ） 日本語日本文学科 3年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

このプログラムは 10 日間台湾へ行き、一人 50 分×2 コマの授業を台湾の学生さんに向けて行います。今年は 3 回生 3 人、2 回生 7 人の合計 10 名で行きました。3 人部屋で大学内にあるゲストハウスに 10 日間宿泊します。授業内容は自身で教たい内容を考える場合もありますし、台湾の先生からこの内容で教えてほしい、と言われることもあります。私は、「日本で服を購入する」と「日本でアパートを借りよう」の二つの内容を行いました。授業を行うにあたって2か月前くらいから教案作成を行います。山本先生や丸山先生に大まかな授業プランを見てもらい、向こうの先生方にも、メールを通して教案を送り、より現地の学生さんのレベルにあった教案へと修正していきます。春休みも重なっていたので、時間はたっぷりありました。

現地に行ってから、いきなり授業というわけではなく歓迎会や台湾の学生さんと交流会がありました。1 日目の夜には夜市に連れて行ってもらいました。そして到着して 3 日目から授業が始まります。自由な時間もかなりおおく、近くには夜市、スターバックス、マクドナルド、台湾の飲食店などがあり、自由に外出することができます。また私たちが宿泊するゲストハウスの下は大学の食堂、ファミリーマートがあり、ファミリーマートは 23 時まで空いているので、愛用していました。その間に教案の手直しや学生さんと関わってみて、修正したほうが良い部分を手直します。日本語学科の学生さんたちは、基本的な日本語や日常会話はわかる学生さんが多かったので中国語がわからなくて困ったということは全くありませんでした。二つのことばがわかる学生さんがとてもかっよかったです。

土日には台湾の学生さんが、観光に連れて行ってくれます。有名な台中市の観光スポットや、スイーツなどでよく知られている宮原眼科など、9-18 時くらいまで台湾を満喫しました。注文など学生さんがすべてやってくれてとても頼もしかったです。日本が好きで、心の優しい温かい学生さん、先生方ばかりだったので、10 日間とても過ごしやすいかったです。

このプログラムを経験したことで、グローバルな世界は素敵だと改めて思えたこと、世界にはいろんな国があり、日本についてこんなに一生懸命学習している学生さんがいると知れたこと、違う国で授業を行うことはこれからの自分の自信に大きくつながったと思います。日本語教育への関心もすごく高まりました。

II. 参加希望者へのアドバイス

日本と文化がおおきく違うわけではないので、比較的過ごしやすいのですが、日本で生きていると当たり前のことでも台湾ではそうでないことが多かったです。

生活面では、台湾の観光地にはトイレットペーパーがないことがおおかったのでティッシュは必須です。台湾では少し暖かく 3 月なのに蚊がいて、夜何度も襲われましたので、虫よけや刺されたとき用のムヒが必要だと思います。ご飯はとてもおいしく、コンビニへ行けば日本と変わ



らないおにぎりみそ汁も置いていて、困ることはありませんでした。物価も日本と変わらないもしくは少し安いくらいだったので、気にせず買い物することができました。外食をした際は友達と割り勘になることが多いので少し現金が多めにあってもいいなと思いました。細かいところだと、ユニットバスなので、足ふきマット、トイレ用スリッパは、持っていくと快適に過ごせます。洗濯もできるのでジェルボールは必須です！

授業面では、日本にいる間にパワーポイントや教案の作成をほとんど終わらせておく台湾での10日間はとても有意義になったと思います。私は60%ぐらいの準備で行ったので、行きたいところがあっても授業の準備をしなきゃという思いでゲストハウスに籠っていた日もありました。教案が早く終わっていたら、いろんなところへ遊びに行くことができたと思います。

学生さんは教科書で習うようなものではなく、生きた日本語に興味を持ってくれていたと思います。「早口言葉」「若者言葉」「関西弁」「ライン文章」など今の私ならこのような題材を選ぶかもしれません。ですがそれは現地に行ってみないとわからないことですので、来年行かれる皆様にはぜひ参考にしてほしいです（関西弁は先生によって意見が分かれるかもしれません）。





（ H.M. ） 日本語日本文学科 2年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

この実習は、台湾の台中市にある静宜大学に 10 日間滞在し、実際に日本語学習者に授業を行うという内容です。私たちは 1 コマ 50 分の授業を 2 回担当しました。また、自分の授業がない時間には、他の実習生や静宜大学の先生方の授業を見学することができ、実習を通して日本語教育について学ぶ貴重な機会となりました。

担当する授業はすべて一人で進行しますが、授業内容や教案作成について事前指導があるため、安心して準備を進めることができます。授業によっては、他の実習生と連続して担当する場合もあり、その際は事前に相談しながら教案作成を進めました。自分が何を教えたいのか、どのような授業にしたいのかを共有しておくことが重要だと感じました。さらに、現地の先生方も実習当日まで丁寧にアドバイスをくださり、大きな不安を感じることなく教壇に立つことができました。授業後など先生方の空いている時間には教案の確認もしていただけるため、疑問点や不安があれば積極的に相談することが大切だと感じました。

また、実習後には担当の先生からフィードバックをいただき、実習ノートの項目以外についても、良かった点や改善点を具体的に教えていただきました。さらに、見学していた他の実習生からもアドバイスをもらい、自分では気づかなかった課題に気づくことができました。授業の日程に間隔がある場合には、アドバイスをもとに授業方法や内容を見直し、次に活かすことができました。

現地では、静宜大学の秘書の方や日本語学科の学生がサポートしてくれます。実習生一人につき一人、日本語学科の学生がチューターとしてついてくれるため、安心して実習に取り組むことができました。皆さんとても親切で積極的に話しかけてくださり、気軽に質問や相談ができるだけでなく、授業以外の会話も楽しむことができました。

授業のない時間には、飲食店や観光地に連れて行っていただき、多くの思い出を作ることができました。休日にはバスや電車で観光地を訪れ、平日は一緒に夕食を取ったり夜市に連れて行ってもらったりするなど、毎日台湾を案内していただきました。食べ物や文化について台湾と日本の違いを話すなど、交流を通して台湾への理解を深めることができた点も印象に残っています。担当のチューターの方だけでなく、他の学生とも親しくなり、帰国後も連絡を取り合っています。

II. 参加希望者へのアドバイス

日本にいる間に授業準備を終わらせておくことが大切だと思います。

現地では、実習生や先生方の授業を見学しながら、自分の授業内容を見直す時間が必要になると思います。また、学習者の人数や机の配置などはクラスによって異なるため、日本でできる準備は早めに済ませておくとう安心です。

さらに、準備を早めに終えておくことで、事前指導の際に授業の練習を行うことができます。



そこで、語彙の使い方や話す速さなど、自分の改善点に気づくことができると思います。

静宜大学では、毎日チューターの方が観光地や夕食に連れて行ってくれます。台湾での生活を楽しむためにも、時間に余裕を持ち、気づいた点はその都度修正していくことが大切だと思います。

初めての海外での教壇実習だったため、とても緊張していましたが、現地の方々が親切に接してくださり、安心して過ごすことができました。

これから参加される方は、ぜひ頑張ってください。



（学食）



（観光地で食べたアイス）



（名前 M. M. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

台中市にある静宜大学の日本語学科で 10 日間にわたり実習と授業見学をしました。一コマ 50 分の授業を 2 回分、教壇実習の場をいただきました。

学習者の人数は授業ごとに異なります。私の場合は 30 人近く受講している授業と 9 人の少数の授業を担当しました。授業前にパソコンの使い方を確認したり、授業後には先生からのフィードバックがあるため授業で困ることは特にありませんでした。

担当の時間以外は、他の実習生の授業を見学できます。良いところを参考にしたり、改善点を伝えることもできます。学習者の雰囲気や反応がわかり、それを見て授業内容を少し変更することもありました。

また、日々の困ったことは静宜大学の学生であるチューターさんや秘書さんに聞くことができます。休日にはチューターさん達と同女生のみんなと、市内まで観光に行きました。台湾の博物館やお寺に行き、詳しく紹介してくれました。美味しい飲食店もたくさん教えてくれました。学校には日本人の先生もいるため、現地で困ったことはすぐに解決できました。

II. 参加希望者へのアドバイス

私は主専攻を日本語学、副専攻を日本語教育として学んでいます。1 年生の春休みに参加した本学の TJFL プログラムで日本語教育に興味を持ち、この台湾実習に参加するために 2 年生から授業を取り始めました。そんな私からのアドバイスは、心配しすぎないことです。日本語教育入門も履修していなかった私は模擬授業の経験がなかったため、静宜大学が初めての授業でした。授業の進め方やペース配分が分からないまま教案作成に取り掛かり、作り直しを繰り返しました。右も左も分からない不安でいっぱいのまま渡台しましたが、そんな不安はすぐに消えるほど現地の方々が優しく、なにより授業の 50 分間があっという間に感じました。日本にいる時も授業日前日も一生懸命準備したことが、自信と心の余裕に変わったのだと思います。

また、宿泊する静宜大学のゲストハウスは他大学の留学生もいます。幸い私たちの時は日本からの留学生だったため、情報共有や日用品の授受ができました。しかし、部屋の扉を強く閉めなくては鍵を閉めても自然に開いてしまうため、貴重品管理や防犯対策などが必要でした。やはり日本とは環境が異なるため、戸惑うことも多々あると思いますがそれも貴重な体験だと思っています。

慣れない環境で慌ただしい 10 日間。疲れてしまうこともありますが、海外の同世代の友達とたくさんの思い出ができました。簡単なことばかりではありませんが、興味のある方はぜひ参加してみてください。

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）





（ 名前 K. O. ） 日本語日本文学科 3年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

台湾の台中市にある静宜大学に滞在し、一人2回日本語の授業を行うプログラムです。授業は静宜大学の日本語学科のクラスで行い、事前に指定された教科書を使った授業や京都に関する授業、日本に関する授業など人によって様々な内容になります。プログラムの参加者の中には日本語教育専攻の人はもちろん、その他の専攻かつ日本語教育に興味はあるが一人で授業を行ったことがない人も多く参加しています。ですが、授業を準備する期間は十分に長く、日本語教育の先生方もサポートしてくださるので初めての授業でも心配せずに参加することが可能です。

自分の担当する授業日以外には、他実習生の授業や実際の日本語の授業を見学することができます。他実習生の授業を見て自分の授業に活かせる部分を見つけられたり、特に実際の日本語の授業を見学することで学習者の様子や授業の進め方を知ることができとても学びになります。

また、プログラム中には台中市の観光地を巡る日も予定されており、台湾の歴史や文化を楽しむことができます。この観光日や歓迎会、送迎会などは静宜大学の学生チューターの方々が予定・企画して案内して下さります。学生チューターの方々は日本語がとても上手なので会話を楽しんだり、夜ご飯を一緒に食べに行ったりと台湾で友達を作ることでもあります。

単に授業をするだけでなく、多くの学びや発見を得られる充実したプログラムです。

II. 参加希望者へのアドバイス

【授業に関して】

プログラム参加が決定すると、静宜大学の先生方と連絡を取り授業の内容を考え始めます。この段階で、いきなり完成した完璧な教案や授業を作ることを意識しない方が良いです。むしろ一回目の提出で修正点がない人はいません。ですので、何度も修正することを逆算して早め早めに作業することが大切です。

また、今回のプログラム中に先生からの評価で特に重要視されていると感じた部分が話し方とパワーポイントなどの教具です。教案を作ることにいっぱいになってしまい、そこまで気が回らないことも多いですが、実際の授業では教案の内容よりも大切なポイントになります。

話し方の具体的なポイントは、声量・簡潔さです。教室が大きく、マイクが有線であると机間巡回に行けないため、地声でも聞き取りやすい声量が大切になります。簡潔さというのは、特に何かを説明するときの文ではとても大切なポイントです。グループやペアで何かを作成したり意見を言い合ったりするワークを指示したいときに、文が長く難しいとうまく伝わらないことが多いです。また、教案にどんな風に説明するか文章を書いていたとしても緊張や焦りでアドリブのようになってしまうことがあります。そうすると意識せず倒置法になったり、難しい熟語を使用



してしまいがちになります。この状況を防ぐには、指示したいことと活動を自分がしっかりと理解し、実際に誰かに聞いてもらいアドバイスをもらうなど事前の入念な準備が大切です。

パワーポイントなどの教具は、言葉で説明が難しいことを視覚的に理解してもらうためにとっても効率的です。しかし、文字の大きさ・色合い・写真・イラストなど気を付ける部分が多いものでもあります。文字は教室の大きさと人数を考えたサイズに、配色は見やすさを意識して、写真・イラストはシンプルかつ説明をつけるなど普段の授業よりも細かい部分まで配慮が必要です。

また、スライドをスクリーンに映す際には変換ケーブルでパソコンをつなげるのではなく、予め USB メモリーディスクにデータを移しておくことを強くお勧めします！

【生活に関して】

衣、食、その他の点で実際に私が感じたことをまとめます。

・衣服

台湾は3月でもとても暖かい気温です。しかし 2025 年度の実習期間は異例の寒さで、持って行った半袖をほとんど着ることができませんでした。なので、夏らしい服装ばかりではなく、長そでや羽織を数枚持っていくと安心です。スーツに関しては、シャツやズボンは複数枚あると洗濯面で安心できると思います。

・食事

台湾の食文化はかなり日本人の口にも合うと思います。またコンビニやスーパーなどで日本食を買うこともできるので特に心配な部分はありません。しかし、台湾の料理には八角やシナモンなどの多くの香辛料が使われているのでそういったものが苦手な場合にはインスタントみそ汁や米パックなどを持参していくとより安心だと思います。

・その他

台湾では日本ほどクレジットカードを使える店がありません。ですので、十分に現金を用意しておくといいです。

また宿泊場所に関してですが、部屋が土足なのでスリッパを持っていくととてもよかったです。トイレとお風呂が一部屋で、脱衣所がないのでお風呂中や出た後に履けるサンダルもあればよいと思います。

心配な海外のトイレに関しては、ポケットティッシュを携帯しておけば安心だと思います。紙をトイレに流せない場所もありますが、トイレットペーパー自体がない場所も観光地では多くありました。

【さいごに】

このプログラムに参加し実際に登壇実習をしたことは、これまでの学びを活かし新たな視点を持つことができた素晴らしい体験でした。台湾の文化や魅力を十分に感じながらこのような経験ができる機会は多くないと思います。迷っている方には、ぜひ参加していただきたいです！

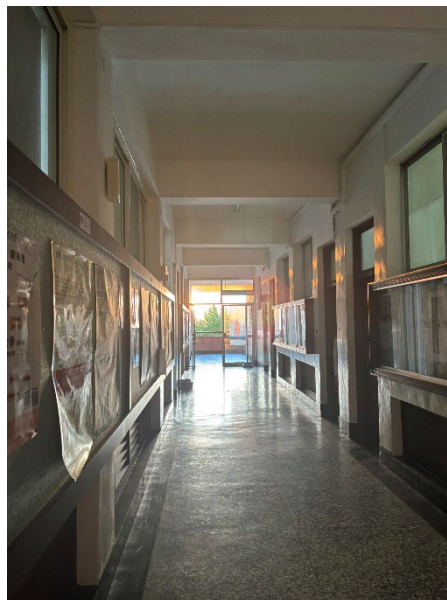
静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



↓ 台湾の大仏



↓ 日本語学科の教室がある廊下
（右側の壁に前年度の自己紹介ポスター
が貼ってあります！）



↓ 台湾人みんな持っているドリンクホルダー



↓ 私の授業の様子



静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



↓ ルーロー飯とサツマイモの葉炒め



↓ 観光日に行った寺院



↓ おいしすぎるジーパイ



↓ 寺院の内部（祭の時期で人が多かった）





（ Y. O. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

本プログラムは、台湾の台中市にある静宜大学に 10 日間滞在し、授業見学や教壇実習を行います。土日には台中市内にフィールドトリップに行きます。主に中級・上級のクラスを担当して、一コマ 50 分の授業を 2 回させていただきます。また 10 人ほどの静宜大学学生のチューターさんがついてくれて大学を案内してくれたり、大学近くの美味しいご飯屋さん連れて行ったりしてくれたりしてとてもお世話になりました。

II. 参加希望者へのアドバイス

①体調には気をつけましょう！

私は台湾に着いて初日から体調を崩し、3 日目に病院に行くとインフルエンザと診断されました。歓迎会や土日に行き台中市内に行くフィールドトリップにも参加出来ず、ずっと部屋で寝ていました。また、病院で点滴などをしてもらったら熱はすぐに下がって体のだるさは無くなったのですが、咳が止まらなくなりその後の教壇実習にも支障が出ました。まさか初めての海外でインフルエンザにかかるとは思ってもいなかったので、体温計や必要な薬など持っておらず、現地の先生方や一緒にプログラムに参加した友人、先輩に大変ご迷惑をおかけしました。初めてのことに、「心配しすぎか」と思うくらい対策をするのが大事だと実感しました。

②日本にいるうちに出来るだけ教案など仕上げる、先生には遠慮せずアドバイスをもらう

①でも示している通り海外では何があるか分かりません。体調を崩すこともあるし、準備が終わっていない事で遊びに行く時間も減ることもあります。今回の実習ではメールの不着などで準備が大幅に遅れるアクシデントもありましたが、ラフプランなどできる範囲のことはしておくべきだと思います。日本で骨組みを作っておくと、先生からのアドバイスを受けて調整もしやすいし現地に着いてから変更することもやりやすいです。担当授業が決まったらコツコツ準備すると後で負担にならずに済むと思います。

私は教案を作り慣れていなかったもので、事前指導の日も先生の研究室で遅くまで教案を見てもらったり、夜遅くまでメールでやり取りをしてたくさんアドバイスをいただきました。そのおかげで自分がどんな授業をしたいか、何を教えたいかが明確になりその後の準備もスムーズに進み



ました。先生はとても親身になって色んなことを教えてくださいましたのでぜひ質問しに行きましょう。

③台湾を楽しむ！

なんといっても台湾を楽しむことも大事だと思います。実習プログラムだから遊びに行くのは違いますが、空いてる時間に夜市に行ったり雑貨屋さんに行ったりするのはとても楽しかったです。私たちはゲストハウスに泊まらせていただくのですが、静宜大学は自然豊かな場所なので虫除けを持って行っておくと安心です。使い捨ての圧縮タオルも便利でタオルを余分に持つていく必要がありませんでした。ティッシュなども少し多めに持って行っておくと安心です。



最終日にチューターさんに連れて行ってもらった魯肉飯と夜市のさつまいもボール

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



（ M. O. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

静宜大学日本語指導実習プログラムは、台湾の台中市のある静宜大学の日本語文学系（日本語学科）で約 10 日間、日本語教育について学ぶことができるプログラムです。実際に教壇に立たせていただくだけでなく、現地で日本語を教えていらっしゃる先生の授業も見学することができます。

今回の実習では 50 分の授業を 2 回担当させていただきました。事前に準備していった授業を現地で行ってみることは緊張しました。しかし、現地の先生方が助けてくださったり、授業後にアドバイスをくださったりしたのでとても実りのある実習だったと思います。

II. 参加希望者へのアドバイス

私自身、人前で話すことがとても苦手です。教壇実習なんてできるだろうかととても不安に思っていました。しかし、事前に余裕を持って準備をしていたこともありそこまで緊張することなく授業に臨むことができました。また、現地の学生さんもとても積極的に活動に参加してくださりととてもスムーズに授業を進められたと思います。

〔実習〕

現地の先生方とはメールを用いてやり取りを行います。そのため先生方からの返信が数日後になることがあります。また、実習生同士の連続授業だと実習生同士で連絡を取り合って授業を組み立てていく必要があります。そのため連絡に時間を必要とする場合があります。そのため、早めに実習準備に取り組み始めることがおすすめです。

また、USB メモリは持っていった方がいいと思います。実習でパワーポイントのデータを入れるだけでなく、教材を印刷する際に PDF ファイルを入れるのに使用します。事務室での印刷は早朝と夜間はできません。その場合自費で印刷するしかありません（印刷店が学内にありました）。早めに準備を心掛けてください。

〔生活〕

現地の学生チューターさんと 2 人 1 組でペアになります。一緒にいる時は私たちの代わりに店員さんに注文してくれたり、翻訳をしてくれたりします。またタッチパネルによる注文ができる場所も大学にはありました。日本語対応はなかったですが、英語対応はあったので、そこまで学内で言語面で困ることは少ないと思います。

泊まる場所は 3、4 人での共同部屋となります。私のいた 4 人部屋はコンセントは 4 つありま



した。しかし、携帯だけでなくパソコンも充電する必要があったため、コンセントタップを持っていくと同時に充電できて良いと思います。

食べ物は泊まる部屋がある建物の1階で買うことができます。ファミリーマートではパンやおにぎり、パスタなど日本と代わりないものが売られています。お菓子はそこまで種類は豊富でないかなという印象を受けました。日本食も高めではありますが売られていました。飲み物もファミリーマートで買うことができます。日本のお茶も売られていました。学校のあちこちにウォーターサーバーがあったので節約したい人は水筒を持参するといいかもしれません。（洗剤と干す場所を用意する必要がありますが）また、ファミリーマートに限らず学内で飲食物を購入する際、お箸やスプーンはもらえません。そのため割り箸を多めに持っていくことをおすすめします。



↑ みんなで小籠包パーティーしました

現地で困ったらチューターさんや秘書さん、先生方が親身に助けてくださいます。この実習を通して日本語を母語としない人に日本語を教えることの難しさや臨機応変に授業を進めていくことの難しさを知れました。はじめは海外でハードルが高いかも知れませんが、しかしいい経験になると思うので迷っている方はぜひチャレンジしてみてください！



（ 名前 M. Y. ） 日本語日本文学科 3 年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

静宜大学日本語指導実習プログラムは、台湾にある静宜大学で 10 日間、日本語指導について学ぶプログラムです。現地の授業の見学をし、担当クラスで実際に授業を行います。日本語教師を目指している人にとって、すごく貴重な経験ができると思います。

今回、私は中上級クラスで 50 分の授業を 2 回行いました。台湾へ行く前に担当の先生方と連絡を取り、授業内容、担当クラスの雰囲気、人数、教科書、目標などを細かく教えていただいたので、それに則って授業を組み立てることができました。私は日本語教育専攻ではないので、周りの実習生よりも教案作りなどに関して経験が少ないという点から、ラフプランや教案作りにとっても苦戦しました。しかし、山本由紀子先生や担当の先生方にアドバイスをいただき、無事に教案を作成することができました。滞在中は授業見学を行い、学習者の日本語レベルに合わせて少し教案を修正し、授業を行いました。

実習期間中は、日本語教育についてだけでなく、台湾の文化や料理、言語についても知ることができます。学生チューターさんが一人一人につくので、一緒にご飯を食べに行ったり、観光地を案内してくれます。日本語がとても上手なので、コミュニケーションに困ることはあまりなかったです。わからない言葉があっても、すぐに翻訳をしてコミュニケーションを取ろうとしてくれてとても助けてくれました。

II. 参加希望者へのアドバイス

実習期間は本当にすぐに終わってしまいます。全て「**早め早めの行動**」を心がけましょう。

・教案作りや授業について

教案作りは思っている以上に時間がかかります。担当の授業が決まったらすぐに手をつけたほうがいいです。私は教案、教材、パワーポイントファイルの作成を終わらせて台湾へ行ったので、少し修正する程度で済みましたが、中には睡眠時間を削って仕上げている人もいました。静宜大学では 1 時間目が 8 時 10 分から始まるので、滞在中に教案やパワーポイントファイルを作ろうと思うと、徹夜する確率が高くなります。できるだけ日本で終わらせた状態で台湾へ行くことをおすすめします。



また、日本語レベルについて、日本の「中上級レベル」と台湾での「中上級レベル」は違うので、授業で説明する時の言葉遣いや授業内容は思っているレベルより少し下げたほうがいいと思います。先生方とメールでやり取りをしますが、届かないというトラブルが実習生の間であったので、実習生同士や山本先生たちと連絡を取り合い、不測の事態にも対処しましょう。教室のプロジェクターにパワーポイントを映すときは USB メモリーがいいと思います。パソコンから繋ぐとすると、うまく繋がらなかったり、Wi-Fi が切れて途中で消えることがあるので、USB メモリーを使って設置してあるパソコンでやるほうがスムーズに授業ができると思います。秘書さんに言うと、事務室でコピーをしてもらえますが、両面コピーで出てきます。片面コピーがいい場合、事前に言いましょう。また、コピー機もあるので、印刷をしたいと思ったときにすぐにコピーをすることができます。



（授業風景①）



（授業風景②）

・ゲストハウスについて

滞在中は静宜大学にあるゲストハウスに泊まります。3 人部屋か 4 人部屋で、ゲストハウス内には共用の洗濯機、乾燥機、電子レンジ、冷蔵庫、ウォーターサーバーがあります。他大学の方もいるので、冷蔵庫に物を入れる時は名前を書き、洗濯機や乾燥機を使う時は使っているとわかるように使用中の紙を置いておくといいです。男女同じ階で隣の部屋になることもあるので、鍵の施錠はしっかりしましょう。部屋の中にはベッド、トイレ、シャワーがあります。土足で部屋に入るので使い捨てスリッパを持っていくことをおすすめします。部屋のトイレはトイレトペーパーを流すことができますが、駅や観光地のトイレはトイレトペーパーがついておらず、また流すことができないのでポケットティッシュを必ず持って行きましょう。シャンプーや洗剤などは全て持参になります。シャワーとトイレは同じ部屋にあり、うまく流さないとトイレまでびしょびしょになるので気をつけましょう。

もし、何か必要なものがあれば、学内には日用品を売っているお店、外には大きなスーパーや



薬局があります。日本のものも多く売っているので、そこで揃えることができます。



↑ 部屋の様子
← シャワー室とトイレ

・手土産について

実習に行く際、担当の先生 2 名、秘書さん、チューターさん 10 名に手土産を持参します。私は、担当の先生と秘書さんには日本のお土産を持っていき、チューターさんには日本のスーパーで売っている袋菓子进行いくつか持って行きました。しかし、本当にチューターさんにはお世話になるので、できれば自分についてくださるチューターさんにはちゃんとしたお菓子や物を持っていったほうが後悔しないと思います。

・服装について

基本的に、実習中はスーツで動きます。靴はパンプスの人もいましたが、スニーカーで大丈夫です。台湾ではほとんどスーツを着ることがないそうなので、そこまで堅苦しくなくて大丈夫です。気候は寒暖差が激しく、日中は日本よりも 10℃以上高く（25℃ぐらい）、朝晩は冷えるのでパーカーなど、脱ぎ着できる服を持っていったほうがいいと思います。半袖だけだと寒いです。

・最後に

台湾で日本語の授業をするという機会や台湾の文化に触れる機会は滅多にないと思うので、多少無理をしてでも外に出て、台湾料理を食べたり、台湾文化に触れたほうが後悔しないです。チューターさんもついてきてくれるので、注文や交通など、不安なことがあっても、助けてくれま

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）



す。せっかくなら滞在中、目一杯楽しみましょう。

大変なこともあると思いますが、必ずこの経験は将来の力になるので頑張ってください。





（ R. Y. ） 日本語日本文学科 2 年次生

参加期間： 2025 年 3 月 4 日～3 月 13 日（10 日間）

I. プログラムについて

台湾の静宜大学で 10 日間、日本語の現地の先生が行う授業や他の実習生が行う授業を見学したり、実際に授業をするプログラムです。私たちは 50 分の授業を 2 回行いました。

事前指導の際には、まず台湾について調べ、実習生同士で発表を行い台湾についての知識を深めました。また教案に関しては、ラフプランを作成し、事前指導の先生と現地の先生に確認してもらってから本格的に取りかかりました。現地に行って授業を見学することで気になる点はその都度修正していました。

私が担当したクラスは中級クラスで 10 人ほどのクラスでした。授業内容は先生によって異なり、自由にテーマを決めていいという先生もいれば、教科書の指定の範囲をやってほしいという先生がいました。

授業がない日はチューターさん達と観光に行きました。行きたいところや食べたい物を聞いてくれて、とても楽しく過ごすことができました。授業がある日でも終わった後に夜市に連れて行ってくれたり、大学の近くの飲食店に一緒に行きました。

II. 参加希望者へのアドバイス

授業準備は日本にいるうちに終わらせておきましょう。現地では他の実習生の見学に行ったり、チューターさんにご飯に誘われることが多く、準備の時間はほとんどありません。模擬授業の日までには教案を完成させた方がいいと思います。私は先生との連絡がうまくいかず、現地で教案を完成させましたがかなり大変でした。また、通して練習する機会がなかったため、20 分も時間が余りました。模擬授業では本番と同じように授業できるような状態にしていれば、時間が余ったときやトラブルがあったときに先生からアドバイスがもらえると思います。

USB メモリは必ず持っていきましょう。ほとんど、教室に設置されているパソコンを使用しました。また印刷物があれば、事務室に頼めば印刷してくれますが、その際も USB が必要でした。事務室が空いていない時間でも印刷できる場所がありますが、そこでも USB は必要です。

ゲストハウスは最初は不便だと感じる点が多かったですが慣れます。必要なものは大学内でも揃いますし、近くのスーパーやドラッグストアなどで買うこともできます。

食べ物はお肉類は少し独特な味がする場合もありますが、基本的には大丈夫だと思います。大学内にファミリーマートがあり、日本でも売っているようなものもあります。スターバックスやマクドナルドも大学の近くにあるので、台湾料理に飽きてきたら行ってみたいと思います。

静宜大学日本語指導実習プログラム（台湾）

